

# 染色業を新宿の誇りに

## 染の王国新宿

新宿の染色業は、新宿区を流れる神田川・妙正寺川の流域で、地場産業として受け継がれてきました。

区内に染色業が多く集積していることは、意外と知られていませんが、現在でも着物など伝統工芸の染色に関わる工房が約90軒あります。長い伝統を受け継ぐ新宿の染色業は、新宿の誇りです。工房の見学には、出かけてみませんか。

【問合せ】産業振興課産業振興係 ☎(3344) 0701へ。

### 新宿の染色業の始まり

東京の染色業は、江戸幕府のお膝元で、武士の袴などの需要により始まりました。千代田区には現在も「神田紺屋町」の地名が残っているように、江戸独特の染物を扱う生産地として、古くは神田・浅草の周辺に発展してきました。

染色業者は大正時代中期、清流を求めて神田川上流に工場を新設して集まり、工場から独立した職人も、早稲田・戸塚・高田馬場・落合周辺に工房を設立したことが、新宿の染色業の始まりです。

### 染の工程と職人

東京の染色には、経済産業大臣指定の伝統工芸品「東京染小紋」「東京手描友禅」「東京都指定の伝統工芸品「江戸更紗」「江戸刺繍」「東京無地染」などがあります。着物や帯が完成するまで、実に複雑で手の込んだ工程を伴いますが、浸染(無地染)、糊置き(柄に伏せ糊をする)、引染(布全体を染める)、湯のし(白生地、染め上がった反物を蒸気で整える)など、区内にも各工程を専門とする職人がいます。染色に関わる事業者で組織された「新宿区染色協議会」では、それぞれが協力して着物や帯を製作するほか、「染の王国新宿」を登録商標とし、伝統文化の継承だけでなく、作品に現代の感覚を取り入れることで、生活の中への文化普及にも努めています。

### 三三博物館で「染め」に触れる

染色の一つ一つの工程には、職人の腕の見せどころがたくさんあります。区内には、工程を間近で見学できる新宿三三博物館が2館あります。一つは、昔ながらの紺の暖簾の向こうに作業場が広がる「東京染ものがたり博物館」(西早稲田3-6-14、富田染工芸) ☎(3987) 0701。もう一つは、門をくぐると近代的工場がガラス越しに見える「染の里二葉苑」(上落合2-3-6) ☎(3368) 8133。いずれも「染め」を体験することができます(予約制)。



▲東京手描友禅の着物



▼東京手描友禅の帯



▶刺繍だけで仕上げた菊の額物



▲刺繍の作業

## 佐伯祐三アトリエ記念館開館記念 新宿歴史博物館特別展

### 佐伯祐三展「下落合の風景」

独特の個性を發揮し、若くしてこの世を去った天才画家・佐伯祐三(1898年〜1928年)は、結婚を機に下落合にアトリエを構えました。2度のパリ留学の間の日本滞在中に取り組んだのが、「下落合風景」の連作です。変わりゆく大正時代の日本の風景が、生き生きとキャンバスに描き出され、懐かしさと優しさを感じさせてくれます。



「下落合風景(テニス)」新宿区(落合第一小学校)蔵

今回、区立佐伯祐三アトリエ記念館(中落合2-4-21、区立佐伯公園内)の4月28日開館を記念し、80年以上の時を経て、「下落合風景」13点が新宿に集まります。パリ時代の代表作約30点とともに、ぜひご覧ください。

【日程】3月27日(土)〜5月9日(日)(4月12日(月)・26日(月)は休館)  
【時間】午前9時30分〜午後5時30分。3月27日(土)・28日(日)、4月2日(金)・9日(金)・16日(金)・23日(金)・30日(金)、5月1日(土)〜4日(祝)・8日(土)は午後8時まで(いずれも入館は30分前まで)  
【費用】300円(常設展とのセット券は500円)。団体(3359) 2131へ。

## 写真館 神田川の歴史や生き物を身近に学ぼう



さまざまな展示で神田川の歴史などを学べます



2月27日、戸塚地域センター(高田馬場2-18-1)のオープンに合わせ、3階に「神田川ふれあいコーナー」を開設しました。神田川により親しみ、楽しく学べるよう、川の歴史や生き物などを写真・映像・模型等で紹介しています。また、1階ロビーに設置した全長43mの水槽には、アユやモツゴなど神田川に生息する代表的な8種類・約千匹の魚が泳いでいます。戸塚地域センターの開館時間内に、自由にご覧いただけます。



神田川の魚たちが泳ぐ姿を楽しめます

【問合せ】みどり公園課みどりの係(本庁舎7階) ☎(5273) 3924へ。